

International University of Health and Welfare  
「共に生きる社会」の実現をめざして

# IUHW

2025.12.15発行

vol.143



開学30周年記念式典・演奏会

特集

## 開学30周年特別企画第三弾



医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。

## 国際医療福祉大学



# CONTENTS

vol.143 November 2025

## 02 特集

### 開学30周年特別企画

開学30周年記念式典／  
開学30周年記念祝賀会／  
開学30周年記念風花祭

## 06 国際医療福祉大学 学会学術大会

## 08 キャンパスレポート

大学祭・ホームカミングデー

## 10 トピックス

- ・国民スポーツ大会 馬術競技において銅メダル獲得！
- ・橋本和明学部長がBリーグ「メンタルヘルスケア相談窓口」担当に
- ・指定難病研究会NEXUS、風花祭の売り上げを寄付
- ・2025年度国際医療福祉大学合同慰霊祭及びご遺骨返還式

福岡国際音楽大学  
設置認可

## 12 海外保健福祉事情

## 14 施設インフォメーション

国際医療福祉大学成田病院  
国際医療福祉大学病院  
国際医療福祉大学三田病院  
国際医療福祉大学熱海病院  
国際医療福祉大学市川病院  
国際医療福祉大学塩谷病院  
山王病院

## 16 キャンパスプラス1 クラブ・サークル紹介

SDGs推進サークル  
(小田原キャンパス)

ご寄附のお願い

## 30th Anniversary Special Project

### 国際医療福祉大学開学30周年 記念式典・演奏会

#### 記念行事に3日間でのべ17,100人が参加！

11月1日～3日の3日間にわたり、本学の開学30周年記念行事が行われた。大田原キャンパスを中心に開催された記念行事には、3日間でのべ17,100人が参加し、盛大に30周年をお祝いした。

開学30周年記念式典が行われた11月1日は、前日の風雨がまるで嘘のような、穏やかな秋晴れに恵まれた1日となった。

午前中には、高円宮妃久子殿下が本学大田原キャンパスをご視察になり、植樹式にもご出席を賜った。今回のご来学は、開学間もない1999年、高円宮憲仁親王殿下が言語聴覚センターや遠隔リハビリテーションシステムのご視察でお越しになったご縁で実現した。植樹式では、「崇高」「持続性」「威厳」などの花言葉を持つモクレンを高木邦格理事長とともに植えられた。

同日午後の開学30周年記念式典・演奏会は、栃木県大田原市の那須野が原ハーモニーホールで開催された。式典冒頭、高木理事長は式辞において、ご出席の方々をはじめ、これまで本学の取り組みをご支援くださった皆様への御礼を述べ、これまでの30年の歩みを振り返った。さらに今後の本学の展望についても付け加えた。続いて、高円宮妃殿下からのおことば、福田富一・栃木県知事、伊原和人・厚生労働事務次官、相馬憲一・大田原市長からのご祝辞を賜った。式典の司会進行は俳優の名取裕子さん、閉会の辞を鈴木康裕学長が務めた。

その後行われた記念演奏会では、新日本フィルハーモニー交響楽団が澤和樹・前東京藝術大学学長（来春開学の福岡国際音楽大学学長）の指揮で演奏。福岡国際音楽大学に教員として着任予定の宇都宮直高特任教授や上野耕平特任准教授も出演した。プログラム最後のチャイコフスキー交響曲第5番の演奏が終わると、会場は大きな拍手に包まれた。本学ゆかりの方々約1,100人が出席したこの式典・演奏会の様子は、約3時間にわたってライブ配信された。

さらに11月2日、3日には、武見敬三・元厚生労働大臣とタレント、実業家の杉村太蔵氏、鈴木裕・国際医療福祉大学病院長による記念講演会、同窓会祝賀会、記念風花祭（大学祭）を開催。地元出身のお笑いコンビ「U字工事」さんのお笑いライブや3,000発の花火が打ち上がり、キャンパス全体がお祝いムードに包まれた。詳細は次ページ以降に紹介する。



●大田原キャンパス管理棟前にモクレンが植樹された



●開学30周年記念演奏会では新日本フィルハーモニー交響楽団が8曲を演奏した



●式辞を述べる高木理事長



●高円宮妃殿下のおことば



●指揮を務めた澤学長と独唱を披露した宇都宮特任教授



●大田原キャンパスをご視察される高円宮妃殿下



●妃殿下をお出迎えする大田原キャンパスの学生一同

### 国際医療福祉大学30周年特設サイト

開学30周年記念行事の写真は30周年特設サイトのギャラリーページにてご覧になれます。この機会にぜひアクセスしてみてください。



<https://www.iuhw.ac.jp/30th/event/index.html#gallery>





## 開学30周年記念祝賀会

11月2日(日)、大田原キャンパスにおいて「開学30周年記念祝賀会」が盛大に開催された。祝賀会には500人を超える同窓生が参加し、再会を喜び合った。第1部では、高木邦格理事長による開会のあいさつに続き、武見敬三・元厚生労働大臣よりお祝いのお言葉をいただいた。第2部では、地元出身のお笑いコンビ・U字工事による本学に

ちなんだトークで会場は大いに盛り上がった。続いて、恩師を代表して谷修一名誉学長、佐々木博先生、丸木一成先生、丸山仁司先生、杉原素子先生から心のこもった祝辞をいただき、懐かしい思い出とともに笑顔があふれた。これまでの歩みと未来への期待を共有する温かな時間となった。

マロニエ会 代表幹事 西田裕介(1998年度卒 理学療法学科)



●武見敬三・元厚生労働大臣と高木理事長を中心に大学幹部がそろって記念撮影



●同窓生で賑わった祝賀会会場的那須アスリーナ



●同窓生にメッセージを送る初代理学療法学科長の丸山仁司先生



●高木理事長の隣で30年の歩みを振り返る初代作業療法学科長の杉原素子先生



●同窓生に語りかける第2代学長の谷修一先生(左)、新井田孝裕副学長(右から2番目)、谷口敬道保健医療学部長(右)



●大爆笑で場を盛り上げた栃木出身のお笑い芸人「U字工事」

### 同窓生の皆様へお願い

同窓生も37,000人を超えるまでになりました。同窓会では本年度より公式LINEを開設し、また、会員管理システムも導入しました。ぜひ、同窓会HP、公式LINEよりシステムにアクセスいただき、会員情報の更新をお願いします。最後に、今後もアジアのリーダーとなる人材を育成していくため、私たちの後輩が日本最高の教育環境で学び続けられるよう、引き続きご寄附を賜れますようお願い申し上げます。

同窓生の皆さまに本学で学んだことを誇りに思っていただけのような大学であり続けたいと思っております。今後も同窓生の皆さまには、本学同窓会「マロニエ会」の活動に、より一層のお力添え、ならびに温かなご支援をいただきますようお願いいたします。

マロニエ会 代表幹事 西田裕介(1998年度卒 理学療法学科)

国際医療福祉大学 同窓会  
『マロニエ会』サイトにログインして  
母校や同窓生とつながりましょう!

国際医療福祉大学 同窓会  
『マロニエ会』サイトはこちら



国際医療福祉大学とLINEで  
友だちになりませんか?  
母校の最新情報に触れます!

LINE友だち追加はこちら  
@889usywa



## 第30回風花祭

「あの時の青春をもう一度!!～楽しいだけじゃだめですか?～」をテーマに第30回風花祭を開催した。大学開学30周年にあたる今年は特に、2日間心から「楽しむ」ことを味わってほしいという願いを込め、実行委員一丸となって準備を進めてきた。また、日々勉強に励む学生が楽しむだけでなく、本学を支えていただいている地域の方へ感謝の思いも込めて、さまざまな企画や催物を行った。イチョウ並木には学生や職員による模擬店が並び、教室などでは学生団体による体験

教室や展示などが行われ、子どもから大人まで多くの来場者の方であふれかえった。特設グラウンドステージには『U字工事』や『ぱーてぃーちゃん』、『THE SUPER FRUIT』の皆様に出演いただき、大いに盛り上がった。また、自衛隊や警察音楽隊、地域で活動する福祉団体の方に出演・出店いただいたことは、今回の風花祭を大盛況に導く原動力となった。キャンパス内の至る所で笑顔や歓声にあふれ、開学30周年の節目にふさわしい賑わいを見せた風花祭となった。

(風花祭実行委員会 副委員長 井上岳志)



●特別講演で登壇した元衆議院議員でタレントの杉村太蔵さん



●「繁栄か、衰退か 活力ある健康長寿社会を創る」というテーマで講演した武見敬三・元厚生労働大臣



●国際医療福祉大学病院の鈴木裕病院長による特別講演



●歌とダンスで会場を魅了した「THE SUPER FRUIT」



●栃木ネタで会場を沸かせたお笑い芸人「U字工事」



●人気急上昇中のトリオ芸人「ぱーてぃーちゃん」



●訪れた人々に賑わいを見せたマロニエ通り



●開幕式には、FM栃木で風花祭をレポートしたお笑い芸人「ベリーズ」も参加した



●子どもたちに大人気のホースセラピー体験



●熱気球搭乗体験



●雨が心配されたものの、予定通り3,000発の花火が打ち上がった



## 第15回 国際医療福祉大学学会学術大会 ～U40の挑戦～

第15回国際医療福祉大学学会学術大会（大会長：谷口敬道 保健医療学部長）は9月15日、大田原キャンパスのF101大講堂で開催された。開学30周年とあって、開学の地の大田原が会場となった。今後の国際医療福祉大学は40歳以下あるいは40歳前後の若い世代が担うという意味を込め、メインテーマは「U40の挑戦」とし、若手研究者によるパネルディスカッションが企画され、活発な議論が交わされた。

### 鈴木学長「発展のカギは次世代の活躍」

開会にあたり、鈴木康裕学長（学会長）は「今後の本学の発展は次世代の活躍がカギ」と大会のテーマを「U40の挑戦」とした意義を強調。本学には急性期、回復期、慢性期、障害者、障害児などを対象とした60もの関連施設があること。多職種で連携したチーム医療。多くの留学生の受け入れ——など本学の特色を挙げた上で「今後は（若い人を中心に）自分たちでこの大学を支えていくことが大事だ」と訴えた。



●開会のあいさつをする  
鈴木学長（学会長）



●開会の辞を述べる  
谷口保健医療学部長（大会長）

### 「教育、臨床、研究力のさらなる向上を」 谷口大会長

谷口大会長は本大会について、若い教員が「教育、臨床と並行しながら、研究活動を継続し、その成果を発表していくことを奨励する重要な場として位置付けたい」と述べ、「これからの30年は教育力、臨床力、研究力のさらなる向上を図り、学術的にも社会的にも貢献する体制づくりをめざす上で、本大会をその重要な一歩にしたい」と開会の辞を述べた。

午前最後に行われたのは三浦裕也薬学部長による「信念を貫き、理想を形とする—企業内創薬評価システムの構築と苦悩—」と題した教育講演。山之内製薬、アステラス製薬時代に自身が進めていた研究とそこから得られた教訓、若い研究者に対するアドバイスとなる言葉を贈った。

### 「信頼性、公正さ。倫理的側面を踏まえた研究を」

一方、午後は、緒方一博研究支援センター長が「研究を見つめ直す～まだ誰も知らない生命の秘密を求めて～」の題目で特別講演を行った。この中で緒方センター長は、「研究経験によって、考え方を伝授するための教育能力も大きく向上する」と述べ、研究者としての大学教員の心得を強調。「研究は信頼性と公正さ、倫理的側面を踏まえて行う必要がある」と語った。

### 初のランチョンセミナー、AI利活用事例を発表

学会学術大会では「本学の教育研究におけるAIの利活用事例報告」をテーマにランチョンセミナーが開催され、参加者が食事をとりながらくつろいだ雰囲気の中、それぞれの若手教員によるAI活用事例に聞き入っていた。ランチョンセミナーが行われたのは今学会学術大会が初めて。

このほか、特別企画「U40の挑戦」では現在進めている研究や開発について6人の若手教員がプレゼンテーションし、特別講演を挟んで行われたパネルディスカッションで活発な議論を行った。



●優秀発表者の記念撮影

### 将来構想勉強会「選ばれる良い大学へ」

大会では、今年で3回目となる将来構想勉強会の成果報告が発表された。鈴木学長主催で開かれているこの勉強会では、本学の抱える課題についてテーマごとに対策を検討、提案している。各キャンパスから選出された教職員が①本学におけるエンロールマネジメントの現状と課題、②国際医療福祉大学のブランディング戦略、③教職協働による人材定着化の推進～DX活用と組織連携による持続可能な大学運営～、④本学における生成AIとの向き合い方、⑤研究力向上につながる学生募集の提案——の5つのテーマごとに開かれてきた勉強会の成果を発表した。鈴木学長は「学生の質を上げ、今回の成果を生かし、選ばれる良い大学にしていきたい」と講評した。



●将来構想勉強会発表者の記念撮影

### 学術大会プログラム内容

（プログラムより）

#### ■優秀演題口述発表I

座長：保健医療学部 医学検査学科長 藤巻 慎一

- 「ICT教育時代に対応した学童期の視覚スクリーニング法の開発：Convergence Insufficiency Symptom Surveyの有用性の検討」

保健医療学部 視機能療法学科 岡野 真弓

- 「ICTを活用した発達障害者相談支援システムの地方自治体への導入の有用性検証」

保健医療学部 作業療法学科 関森 英伸

- 「ストレス適応障害に対する多発性硬化症治療薬フィンゴリモドの有効性に関する検討」

薬学部 薬学科 辻 稔

- 「大学生における発達障害の各特性と摂食障害との関連」

医学部 公衆衛生学 鈴木 知子

#### ■優秀演題口述発表II

座長：医療福祉学部

医療福祉・マネジメント学科副学科長 江田 哲也

- 「新生児脳波におけるデルタ波スペクトル解析による脳成熟の定量評価」

国際医療福祉大学成田病院

新生児集中治療部 北瀬 悠磨

- 「画像診断装置教育システムの開発とその有用性の検証」

成田保健医療学部 放射線・情報科学科 花沢 宏之

- 「働き方改革による医療経験不足の補完としての

Virtual Realityの活用」

国際医療福祉大学成田病院 脳神経外科 末廣 栄一

- 「リンパ節の血流測定による乳癌腋窩リンパ節転移診断」

医学部 乳腺外科学 関根 速子

#### ■将来構想勉強会成果報告会

- グループ1「本学におけるエンロールマネジメントの現状と課題」

- グループ2「国際医療福祉大学のブランディング戦略～未来の医療人材育成と大学の価値向上を目指して～」

- グループ3「教職協働による人材定着化の推進～DX活用と組織連携による持続可能な大学運営～」

- グループ4「本学における生成AIとの向き合い方」

- グループ5「研究力向上につながる学生募集の提案」

司会：成田保健医療学部長 西田 裕介

#### ■教育講演

「信念を貫き、理想を形とする—企業内創薬システムの構築と苦悩—」

演者：薬学部長 三浦 裕也

座長：薬学部 薬学科長 八木 秀樹

#### ■ランチョンセミナー

「本学の教育研究におけるAIの利活用事例報告」

演者：福岡保健医療学部 医学検査学科 上野 民生

成田看護学部 看護学科 島田 伊津子

薬学部長 三浦 裕也

保健医療学部長 谷口 敬道

司会：保健医療学部 理学療法学科長 糸数 昌史

#### ■特別企画 『U40の挑戦』

演者：福岡保健医療学部 理学療法学科 有家 尚志

成田保健医療学部 作業療法学科 木村 修豪

保健医療学部 放射線・情報科学科 松本 健希

成田保健医療学部 医学検査学科 小林 崇平

薬学部 薬学科 高橋 浩平

医学部 医学科 小野里 優希

座長：研究管理室長 藤田 烈

#### ■特別講演

「研究を見つめなおす～まだ誰も知らない生命の秘密を求めて～」

演者：研究支援センター長 緒方 一博

司会：保健医療学部長 谷口 敬道

#### ■パネルディスカッション 『U40の挑戦』

演者、ファシリテーター：特別企画の演者・座長と同じ

#### ■優秀演題表彰者

##### ■学会長賞

保健医療学部 作業療法学科 関森 英伸

##### ■学術大会長賞

成田保健医療学部 放射線・情報科学科 花沢 宏之

##### ■優秀賞（口演）

保健医療学部 視機能療法学科 岡野 真弓

薬学部 薬学科 辻 稔

医学部 公衆衛生学 鈴木 知子

国際医療福祉大学成田病院 新生児集中治療部 北瀬 悠磨

国際医療福祉大学成田病院 脳神経外科 末廣 栄一

医学部 乳腺外科学 関根 速子

##### ■優秀賞（ポスター）

医療福祉学部 医療福祉・マネジメント学科 新井 祥子

保健医療学部 理学療法学科 広瀬 環

福岡国際医療福祉大学 医療学部 言語聴覚学科 石川 幸伸

保健医療学部 視機能療法学科 今中 楓菜

大学院医療福祉学研究科 保健医療学専攻

臨床検査学分野 笠倉 斗真

薬学部 薬学科 平尾 卓也

赤坂心理・医療福祉マネジメント学部 心理学科 長谷川 晃

医療福祉学部 医療福祉・マネジメント学科 若林 功

福岡保健医療学部 言語聴覚学科 大内田 博文

国際医療福祉大学熱海病院 脳神経内科 竹内 英之

大学院医学研究科医学専攻 社会医学研究分野 飯室 聡

福岡薬学部 薬学科 緒方 勝也

医学部 医学科 吉岡 広陽

国際医療福祉大学成田病院 消化器外科 篠田 昌宏

国際医療福祉大学病院 眼科 森 圭介

国際医療福祉大学成田病院 糖尿病代謝内分泌内科 吉田 知彦



●大会会場の様子



## 大学祭レポート

10月  
11・12日

### 成田キャンパス

#### 第10回成翔祭

今年の成翔祭のテーマは「spark」。医療系学生としての学びや情熱、仲間との絆が重なり合い、キャンパス全体が輝きに包まれた。1日目は雨、2日目は曇り空となったが、2日間で4,474人が来場し、記念すべき第10回を華やかに彩った。特別企画ではクイズラリーやビンゴ大会に加え、芸能企画として「銀シャリ」「エレガント人生」「もぐもぐピーナッツ」が登場し、笑いにあふれるステージとなった。また、日本航空やSPRING JAPANによる体験型ブース、21店舗の模擬店、各団体のパフォーマンスなど、多彩な企画が来場者を魅了した。学生一人ひとりの情熱が光る、まさに“spark”があふれる2日間であった。

(成翔祭実行委員長 竹田奈央)



●お笑い芸人さんと記念撮影



●2日間で4,474人が来場した

### 東京赤坂キャンパス

#### 第8回茜陵祭

今年のテーマは「new step!!!」。新たな一歩を踏み出すべく、初のゲスト企画として医師で作家の久坂部羊先生による特別講演会を開催した。また、体育館を舞台にした脱出ゲーム「ハロウィン・クエスト」や講堂での音楽ライブにスモーク演出を加えるなど、学生の新しいアイデアにご来場の皆さんの笑顔も一層の輝きが見られた。角田圭雄教授の記念講演会（市民公開講座）、SDGs推進チームの活動報告、ボランティアサークルやボルダリングサークルも参加した縁日や模擬店など、一日限りだが実り豊かな大学祭を開催することができた。

(事務部 小野桂子)



●脱出ゲーム「ハロウィン・クエスト」の様子



●軽音サークルLIVE、LED照明がスモークに映える

### 小田原キャンパス

#### 第20回潮風祭

今年、記念すべき節目となる第20回潮風祭が盛大に開催された。会場を城内校舎へ移し、野外ステージでは軽音楽部・アンサンブルサークル・ダンス部による迫力あるパフォーマンスが披露され、来場者の皆様に楽しんでいただいた。

室内では、熱海病院DMATとのコラボ企画や各学科による体験ブース、懐かしさあふれる縁日など多彩な催しが展開され、地域の方々も多数来場した。世代を超えた交流が生まれ、笑顔と活気に満ちた2日間となった。今年のテーマ「桜梅桃李」の通り、一人ひとりが個性という花を咲かせ、多彩な花々が咲き誇る潮風祭となった。

(学務課 杉崎文奈)



●軽音楽部による野外ステージ



●熱海病院DMATとのコラボ企画。トリアージについて解説する展示

### 大川キャンパス

#### 第21回月華祭

10月11日・12日の2日間、第21回大川キャンパス月華祭が開催された。今年のテーマは「RINK」。輪をイメージとした繋がりのある大学祭にしたいという想いの中、月華祭実行委員会が4月にスタート。2年生執行部が昨年度の経験を生かしながら説明会や会議を重ね、準備を進めていった。はじめこそ学祭未経験の1年生へ指示を出す難しさに苦戦していた執行部も、徐々に1・2年生がリンク、最終的にはうまく運営を行った。特設ステージと模擬店を同じ1号館駐車場に設置することで、会場が一体感に包まれる中「イントロクイズ」や「ラムネ早飲み競争」といった学生企画を中心に盛り上がりをみせた。今回の月華祭の成功が、次年度へと繋がっていくことを期待する。

(学生係 副島裕之)



●1号館前のメイン会場



●ダンスサークル



●ラムネ早飲み競争

## ホームカミングデーレポート

10月11日

### 成田キャンパス

成田キャンパスのホームカミングデーでは、3学科分科会ごとに関心深いイベントが催された。看護学科分科会では「性格タイプの違いによる“伝わる”コミュニケーション」をテーマに、MBTI®認定ユーザーの河瀬希代美先生をお招きし、自己理解と他者理解の重要性を学んだ。教職員、在学生、卒業生ら43人が参加し、参加者からは実践的な学びを得られたとの声が多数寄せられた。理学療法学科分科会では、整形外科クリニックでの臨床のほか、スポーツチームでのサポートや野球選手のパーソナルサポートを行うなど多方面で活躍する卒業生の渡辺大雅先生による、実践を通じた講演会が開催された。放射線・情報科学科分科会では、同窓生と教員、さらに在学生も交えた交流会を行った。卒業生との温かい触れ合いに満ちた1日となった。



●卒業生から在学生に向けた温かいコメントが寄せられたメッセージボード



●河瀬先生と参加した看護学科の学生たち

(学生課 加藤ゆり子)

### 小田原キャンパス

小田原キャンパスのホームカミングデーでは、看護学科・理学療法学科・作業療法学科の卒業生による、「地域で活躍する卒業生の今」と題した講演会を開催した。それぞれの分野で活躍している卒業生から、仕事のやりがいや地域との関わり方など、リアルな体験談を聞くことができ、多様なキャリアの広がりを学ぶ機会となった。講演会後は、多くの卒業生がキャンパス内で同時開催されていた大学祭「潮風祭」を自由に散策し、母校の今を味わいながら在学生との交流も楽しんでいた。さらに、3学科合同の分科会も実施。学科の垣根を越えて、卒業生同士のつながりが広がるひとときとなった。

同窓生や恩師との再会を楽しんだ卒業生だけでなく、先輩方から直接お話を聞く貴重な機会を得られた在学生にとっても、実りの多い1日となった。

(学務課 杉崎文奈)



●参加した同窓生で記念撮影



●3学科合同の分科会での様子

### 東京赤坂キャンパス

東京赤坂キャンパスで初となるホームカミングデーが、10月11日の茜陵祭にあわせて開催された。卒業生がまだ4期生までのため、在学生にも呼びかけ、両学科の卒業生・在学生・教員あわせて約50人が参加し、会場は活気に満ちた。

「卒業生と学部生の世代を超えた繋がり」と「キャンパス活動の発展」を目的とし、当日は学部生によるサークル活動報告、第1期卒業生ゲストへのインタビュー、花くじによる交流タイムなどが行われた。



●卒業生ゲストへのインタビュー



●卒業生と在学生そろって記念撮影

卒業生の活躍や学部生の活発な報告は双方にとって良い刺激となり、交流を通して新たな繋がりや絆が深まった。  
(事務部 名本さり)

### 大川キャンパス

10月11日、月華祭と併せて、ホームカミングデーを開催した。PT分科会では症例検討やミニゲームで専門性と交流を深め、OT分科会ではキーバイキングとVR体験等で楽しい時間を提供、MT分科会では研修会を通じて最新知識を共有した。また、NHKが全国各地の大学で開催する講演型イベント「NHK大学セミナー」を学内で開催。同局「100カメ」(100台のカメラで職場等での人間の生態を観察する番組)のチーフ・プロデューサー渡辺隆文氏を講師に招いて、在学生や同窓生、保護者が働くことの意義や現場のリアルを学んだ。

いずれも、開学30周年・大川キャンパス20周年を祝う節目のイベントとして盛況のうちに終了。事務局では、今後も同窓生との絆を深め、学びの場を広げていきたいと考えている。

(学生係・同窓会事務局 久良木愛未)



●NHK大学セミナーで職場のリアルを学ぶ



●作業療法学科の分科会



## 国スポ馬術競技で本学理学療法学科2年の廣田大和さんが銅メダル獲得！

9月28日より滋賀県で開催された第79回国民スポーツ大会の馬術競技に、国際医療福祉大学保健医療学部理学療法学科2年の廣田大和さんが栃木県代表として出場し、顕著な成績を収めた。

廣田さんは、大会期間中「標準障害飛越競技」「六段障害飛越競技」の2種目に出場。「六段障害飛越競技」において見事銅メダルを獲得する快挙を達成した。廣田さんの活躍は栃木県選手団全体の成績にも大きく貢献し、栃木県は馬術競技の総合成績において天皇杯（男女総合）で第7位の入賞を果たした。

今回の活躍について廣田さんは「たくさんのご声援、ありがとうございました！今後もホースセラピーの普及と発展のため、全力で取り組んでまいります」とコメントした。

（理学療法学科教授 小野田公）



●6つの障害物を連続して飛び越えていく六段障害飛越競技

## Bリーグの『メンタルヘルスケア相談窓口』に本学・橋本和明教授が就任

公益社団法人ジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグ（以下、Bリーグ）が8月に開設した「メンタルヘルスケア相談窓口」対応に、本学の橋本和明赤坂心理・医療福祉マネジメント学部部長・心理学科長が就任した。

同相談窓口は心の不調となった選手・スタッフに対応する「クラブ担当者」を支援するために設けられたもの。Bリーグではこれまで、クラブ内の選手やスタッフがメンタルヘルスの不調を訴えた場合には、原則としてクラブ担当者が対応に当たってきた。しかし、担当者の負担が大きいため専門家に相談できる体制を整備した。

今回の就任にあたり、橋本教授は「メンタルヘルスはどの職場・組織でも重要であるが、なかでもストレスの高いアスリート達はその調整に苦労している。少しでもお役に立つことができ、人気が急上昇している日本のバスケットボールの発展に寄与できれば嬉しい」とコメントしている。

（広報部 山崎香里）



●「メンタルヘルスケア相談窓口」対応を行う  
橋本和明赤坂心理・医療福祉マネジメント学部部長・心理学科長

## 福岡国際音楽大学、文部科学省より設置認可

本学グループの福岡国際医療福祉大学を運営する高木学園は、福岡県で唯一の音楽大学である福岡国際音楽大学の来年4月開学に向けてかねてより準備を重ねてきた。このたび2025年10月28日付で、文部科学省より設置認可を受けた。

これを受け、11月4日に高木邦格理事長、澤和樹学長（東京藝術大学第10代学長）の出席の下、記者会見を開催した。会見では澤学長が「世界で活躍できる演奏家の育成はもちろん、音楽ビジネスや医療・福祉分野での音楽療法など、音楽を通じて社会に貢献できる人材を育てたい」と、福岡国際音楽大学の教育理念と今後の展望を語った。会見後には、澤学長と岡田敦子副学長（前東京音楽大学副学長）によるデュオ演奏も披露され、温かい拍手に包まれた。会見の様子は、新聞・テレビなど各メディアで多数取り上げられた。

（福岡国際音楽大学 中島剛）



●記者会見に臨む高木理事長、澤学長（中央）、岡田副学長（中央左）など



●記者会見後に行われた澤学長と岡田副学長のデュオ演奏

## 指定難病研究会NEXUS、風花祭の売り上げを寄付

指定難病研究会NEXUSは、大田原キャンパスの薬学・看護・言語聴覚・理学療法・SHMの学生約20人が所属するサークルである。授業での学びを深めることを目標とし、勉強会や寄付活動に取り組んでいる。

昨年度の風花祭では綿飴店を出店し、売上を難病医学研究財団に寄付した。今年度は前年度に続いて同財団へ寄付し、さらにシロアムの園と認定NPO法人うりずんを加えた三団体に寄付した。シロアムの園はケニアの障がい児支援施設であり、代表の公文医師の活動に感銘を受けたメンバーの提案で寄付を行った。うりずんは県内の医療福祉団体であり、寄付を通じて将来医療従事者として地元医療に貢献するという士気を高めることができた。

当サークルは設立から三年半を迎え、大田原から世界へと活動を広げている。今後も社会的活動を行い、学びを充実させたい。（指定難病研究会NEXUS代表 大田原キャンパス薬学部薬学科4年 橋本蔭子）



●寄付証明書やお礼状を掲げて記念撮影するサークルメンバー

## 2025年度国際医療福祉大学合同慰霊祭及びご遺骨返還式

10月25日、成田キャンパスにて「2025年度国際医療福祉大学合同慰霊祭及びご遺骨返還式」をご遺族、教職員、学生などの参列のもと挙行了。

ご献体とは、死後、自分の遺体を医学部生の解剖学実習のために提供することを生前に登録し、亡くなった後にご遺族が医学部に遺体を提供すること。ご献体は医療従事者と患者様との信頼関係の原点であり、解剖学実習を通して、医学部生は社会からの大きな期待を実感するとともに、医療従事者として学び、成長する。

合同慰霊祭ではご遺族、教職員、学生など約300人の参加者全員で医学教育、研究のために献体された方々に黙とうを捧げた。続いて本学から追悼のことば（鈴木康裕学長）、お礼のことば（坂元亨宇医学部長）、感謝のことば（医学部3年生学生代表五味田元さん）を述べた。そして、参加者全員が一人ひとり祭壇に献花した。

合同慰霊祭に続きご遺骨返還式を行い、献体の会代表を務める坂元医学部長からご遺族にご遺骨を返還。解剖学の小阪淳教授の挨拶で閉会した。

（広報 城貴弘）



●成田キャンパスの体育館で行われた合同慰霊祭



●感謝のことばを述べる学生代表の五味田さん



●祭壇に献花する参加者



●ご遺族にご遺骨を返還する坂元医学部長



## 14か国・地域で計821人が参加

2025年度夏季の海外研修講座「海外保健福祉事情」は8、9月、14か国・地域で25のグループに分かれ行われた。本学5つのキャンパスから565人、姉妹校の福岡国際医療福祉大学から256人、夏季の参加者数としては過去最大となる計821人が参加、世界各国の医療・福祉を学んだ。この中から今号では8つのグループを紹介する。

## マレーシア マネジメント&amp;サイエンス大学(MSU)

## 肌で感じた多民族、多宗教、多様な文化

現地ではMSUのスタッフとともに、医療施設の訪問と見学、実技実習、文化交流を行った。学生の専門分野ごとのプログラムをMSUが用意してくれていた。薬学科の学生たちが、地元製薬会社や、国内で販売される医薬品、サプリメント、化粧品などを規制・監督する政府機関「国家医薬品局」などに訪問できたことは有意義だった。学生はマレーシアが多民族、多宗教の国で多様な文化が息づいていることを肌で感じた様子。成田薬学部部の畠中玲綺さんは「お互いの価値観を理解し合う大切さを学んだ。この経験を通しもっと広い視野で医療に携わっていきたい」と話していた。



●薬剤学実習の様子

成田薬学部薬学科 西村和洋教授

## フィリピン フィリピン大学

## 社交的なフィリピン大生と涙の別れ

フィリピン大学の授業風景や隣接する病院の見学、医療支援を体験できた。印象的だったのは、フィリピン大学の学生が社交的だったこと。本学学生との交流が深まり最後は涙の別れになるほどだった。福岡国際医療福祉大学医療学部部の真鍋颯真さんは「研修を通し、日本とフィリピンの医療での考え方の違いを感じることができた。日本の医療にだけ触れていたなら、今後知ることのないような経験を実感できた」と満足そうだった。学生は成田、大川両キャンパスと福岡国際医療福祉大学の計17人が参加したが、現地の人たちの温かい対応で無事10日間を過ごすことができた。



●交流会 (Tomdachi Hour) で親ほくを深めた

成田保健医療学部医学検査学科 山口良孝准教授

福岡保健医療学部看護学科 野上裕子講師

## イギリス イーストアングリア大学

## 多職種連携の重要性、実感

英国イングランドの古都ノリッジのイーストアングリア大学を拠点とした研修は26人の学生が参加した。救急や手術室看護、助産などの専門的な内容と一般教養としてのヒューマンエラーに関する講義・演習を受講した。赤坂心理・医療福祉マネジメント学部部の毒島由利香さんは「気管挿管・気道確保の実習やメンタルヘルス、医療安全に関する講義を受講して、専門職には正確な知識と技術、的確な判断力が求められることと多職種連携の重要性を実感した。アフタヌーンティーを通して現地文化に触れ、学生同士の交流を深めることもできた」と充実した研修を振り返っていた。



●高齢者施設での現地の人たちとの交流の様子

保健医療学部視機能療法学科 岡野真弓准教授

福岡国際医療福祉大学医療学部言語聴覚学科 柳裕哉助教

## 中国 中国リハビリテーション研究センター(CRRC)

## 伝統料理を通して学んだ「医食同源」

北京は豪雨災害に見舞われたという話だったが、中国リハビリテーション研究センター(CRRC)周辺は大きな被害がなく、盛大な歓迎と丁寧な指導をいただいた。主な見学・研修先はCRRCと北京按摩医院で中国の伝統的な医療を含め、学生たちは熱心に医療現場の見学や体験を行った。福岡薬学部の大仁田健さんは「中国の医療で東洋医学が重要な位置を占めていること、伝統的な料理を通して『医食同源』という考え方が浸透していることを学んだ。実際の現場見学や中国の生活に触れることで、医療の多様な在り方を今後の学びに生かしたい」と感想を話していた。



●CRRC中医療室で中国の伝統的治療手技を体験する学生

小田原保健医療学部理学療法学科 山口将希講師

## 韓国 大邱韓医科大学

## 化粧品づくり、鍼治療をなど充実の体験学習

各キャンパスから計36人の学生が参加し、現地の学生や教員とも積極的に交流を深めながら学びを進める姿が印象的だった。韓方病院内ツアーでは現地の医療事情について興味深く見学をし、韓方医療を中心としたさまざまな専門の教授陣による連日の講義に、真剣にメモを取りながら参加していた。検査実習や、化粧品づくり、鍼治療体験などの体験学習が充実しており、参加学生たちはグループに分かれ、それぞれ協力し合い、楽しみながら学びを深めていた。



●ベアになって鍼治療を体験する実習の様子

福岡保健医療学部／総合教育センター・国際交流センター  
福井護准教授  
赤坂心理・医療福祉マネジメント学部心理学科 亀山晶子講師

## タイ クリスチャン大学

## 伝統医療、最先端医療学べる貴重な機会

マッサージ、アロマトラピーなどの伝統医療とIT技術を駆使した最先端医療の双方を学修できる貴重な機会となった。医療ツーリズムに対応するため、多言語に対応できるスタッフを教育、配置していることが印象的だった。クリスチャン大学や見学先の方々の心配りは素晴らしく、タイの伝統的なホスピタリティを学ぶこともできた。成田薬学部部の菅谷咲良さんは「初めての海外で不安もあったが、病院見学や現地の魅力に触れ、充実した日々を過ごす中で不安は自然に消えていった。国を越えた医療への想いに刺激を受けた。今後も努力していきたい」と総括していた。



●ラチャピバット病院で救急バイクを見学

成田保健医療学部放射線・情報科学科 柘沢宏之教授

## 韓国 仁済大学

## 国際的視野を広げる基盤となる経験

韓国の医療制度や文化に触れる貴重な機会となった。医療機関の見学や特別講義を通じ、日本との共通点や相違点を学び、将来の学習や臨床に結びつけようとする姿勢が見られた。成田保健医療学部部の三郷颯太さんは、「さまざまな体験を通し、日本との違いを学ぶことができた。この経験を今後に生かしたい」と話している。学生たちのこれらの経験は、今後の学修や臨床実習において国際的な視野を広げる基盤となると考える。本研修を支えてくださった仁済大学の教員ならびに学生の皆様に深く感謝申し上げる。



●ベク病院の水治療室を見学

成田保健医療学部理学療法学科 岡道綾助教



## 国際医療福祉大学成田病院

### 耳鼻咽喉科の市民公開講座を開催

10月11日、耳鼻咽喉科の市民公開講座を開催した。「よくわかる“きこえ”“難聴”“耳なり”のおはなし～赤ちゃんからお年寄りの方まで リハビリテーションや補聴機器による対応～」というテーマで、耳鼻咽喉科部長の野口佳裕教授、リハビリテーション技術部の伊藤太枝子言語聴覚士と北大輝言語聴覚士が、難聴や耳なりに関する基本的なことや具体的な診療についてわかりやすく講演。参加者たちは熱心にメモを取り、講演後のアンケートでも「近所の耳鼻科では治療を諦めていたが、今日の先生の話聞いて診察してもらうことを考えた」「国際医療福祉大学が、補聴器や人工内耳を専門的に扱っていることを知れてよかった」など、具体的な治療や相談につながる意欲的で好評の声が多く寄せられた。本講演は地域の皆様に、当院の強みである高度な専門性と多職種布陣によるきこえのリハビリテーション体制をしっかりと伝えるよい機会となった。



●耳鼻咽喉科市民公開講座の様子

## 国際医療福祉大学病院

### スウェーデン国立ルンド大学医学部の医師が当院で手術見学

10月16日、スウェーデン屈指の名門大学である国立ルンド大学医学部の医師3人が当院を訪れ、本学医学部教授で当院脳神経外科の中富浩文医師の執刀による聴神経腫瘍摘出手術を見学した。中富医師は日米通算4,000例以上の執刀経験を有し、脳と血管の温存・再建を成し遂げた脳神経外科のスペシャリスト。特に聴神経腫瘍、血管奇形、頭蓋底髄膜腫、脳動脈瘤の手術を専門としている。

中富医師は、上記の術式で豊富な実績を持ち、国際的にも高い評価を受けている。このように多くの実績を積み上げてきた中富医師のことを、ルンド大学医学部のピーター・シエスヨ教授、エリック・クロンバル博士、エリック・ウベリウス博士の3人が知るところとなり、今回の手術見学が実現した。「当院とルンド大学の友情セミナー」と称し、互いが双方のさらなる発展・繁栄を誓い合った。

(総務課 平野幸宏)



●ルンド大学医学部医師3人と当院スタッフ(前列右から4人目が中富医師)

●執刀中の中富医師を注意深く観察するルンド大学の医師たち

### 「成田市健康・福祉まつり」への参加

「成田市健康・福祉まつり」が10月18日に開催され、当院は地域医療連携の一環として出張講座を実施、大盛況のうちに終了した。成田赤十字病院や成田市の福祉施設など各団体が参加するなか、当院からは整形外科の内藤寧医師が「変形性膝関節症を知ろう～診断と治療、日常生活の工夫～」、リハビリテーション技術部の齋藤正美室長が「正しい運動、生活動作を実践しましょう～リハビリ編～」、栄養室の松井優香管理栄養士が「正しく食べて元気に過ごす～骨と筋肉のための栄養～」と題して講演を行い、参加者約120人の方々が大変興味深く耳を傾けていたのが印象的だった。

今後も地域との緊密なコミュニケーションを図り、このような地域貢献イベントに積極的に参加することで、地域社会との連携強化に努めていく。

(総務広報課 畠山実大)



●成田市健康・福祉まつりでの講演

## 国際医療福祉大学三田病院

### 救急部の健康セミナーを開催



●大塚部長による講演

9月6日、外傷・救急センター部長の大塚洋幸医師による健康セミナー「救急車を呼ぶ、その前に知っておきたいこと～“もしも”のときに命を守る応急処置の基本～」を開催。最初に、多岐にわたる救急医の役割について、外科外傷を専門とし世界で活躍してきた大塚部長の紹介、2次救急指定病院の当院の救急体制についてお話しした。

次に、本題である「救急車を呼ぶ前に知っておきたいこと」について、①救急車を呼ぶ判断、②救急車到着までにやるべきこと、③家庭でできる、命を守る日ごろの備えの3つのポイントを解説。また、AEDや胸骨圧迫、止血の必要性、具体的な方法などをデモンストレーションも交えてわかりやすく紹介した。講義後は実際に希望者にAEDや胸骨圧迫を体験してもらいながら質問にお答えし、セミナーは盛況のうちに終了した。

アンケートには「わかりやすく大変役立つ内容だった」「デモンストレーションが参考になった」「救急車を呼ぶのを躊躇してしまうが、命を守るため迷わず呼ぶこと、情報をメモしておくことが重要だとわかった」などのコメントが並び、大変好評だった。

(総務課 山本悦子)



●盛況のセミナーの様子

## 国際医療福祉大学熱海病院

### 糖尿病をテーマに市民公開講座を開催

10月25日、「放っておくと怖い! 糖尿病の新常識」をテーマに市民公開講座を開催。糖尿病・代謝・内分泌内科の山田佳彦上席副院長と今年4月に当院に着任した村田真里子医師が講演を行った。

本講座では、糖尿病の原因、インスリンの働き、早期発見の重要性、治療方法などについて、さまざまな図や写真を使用しながら詳しく説明。最後に、理学療法士の深川翔平職員が運動の必要性をお話し、参加者といっしょに下肢の効果的な運動を実践した。生活に密着した糖尿病に関する講演ということもあり、多くの参加者がうなずきながら、熱心に耳を傾けていた。アンケートでも、当院の診察を希望する参加者が多数おり、今後も皆様に満足いただける講座を実施していきたいと考えている。

(総務課 鈴木佳寿真)



●市民公開講座の様子

## 国際医療福祉大学塩谷病院

### 「第2回市民公開講座 認知症講座」を開催

10月4日、国際医療福祉大学塩谷看護専門学校講堂にて、本年度の「第2回市民公開講座」を開催。野崎一朗副院長が「認知症講座～アルツハイマー病と治療のはなし～」をテーマに講演を行った。本講演では、「認知症」とはどういうものかの説明に始まり、「年相応のもの忘れ」「病気のもの忘れ」のちがいについてのお話のほか、アルツハイマー病の治療について、新薬であるレカネマブ、ドナネマブ等について詳しく解説。さらに、軽度認知障害や認知症の周辺症状が疑われる場合には当院脳神経内科での検査をおすすめしたところで講座を締めくくり、大盛況に終わった。

受講者の皆様からは、「今まで認知症＝アルツハイマー病だと思っていたが、そうではないと知った」「症状によっては、治療薬を服用することで進行を遅らせることができると知り、すぐに受診しようと思った」など、さまざまな視点から感想が寄せられた。今後も、地域の皆様が関心のあるテーマの市民公開講座の開催に取り組んでいきたい。

(総務・人事課 後藤文栄)



●市民公開講座に参加した受講者



●講演する野崎一朗副院長

## 国際医療福祉大学市川病院

### 骨粗しょう症をテーマとした「第108回けんこう教室」を開催

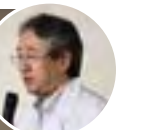
10月4日、「転ばぬ先の骨づくり～明日から役立つ骨粗しょう症予防のためのポイント～」と題し、整形外科副部長の別所雅彦医師による「第108回けんこう教室」を開催した。骨粗しょう症は、けんこう教室参加者の大多数を占める高齢者にとって非常に関心が高いテーマの1つで、90人を越える申し込みがあった。

別所医師は骨粗しょう症の専門医で、長年にわたり研究・治療にあたってきた。疾患によって骨が弱くなる仕組みをはじめ、自覚がないことが転倒して骨折することの原因でもあるということを知りやすく解説。また、骨密度検査で自身の骨の強度を知ることが予防のポイントであることを強調した。さらに、骨の強度を維持するための効果的な食生活や、運動機能が衰えて転倒するリスクを下げるための運動習慣も紹介した。講演後の骨密度検査・診察の希望は通常を上回る人数となり、今回のテーマへの関心の高さがうかがえたけんこう教室となった。

(総務・人事課 高田聡)



●講義の様子



別所雅彦医師

## 山王病院

### 快適な出産環境の提供へー特別仕様マットレス導入と「お産講座」開催

当院産科および山王バースセンターに、特別仕様のマットレス「エアウィーヴ for Sanno」50床分を導入した。妊娠中から産後までの体型変化に対応するカスタマイズタイプで、衛生面・耐久性にも優れ、医療現場での長期使用に適している。

本件については11月3日、「いいお産の日」に朝日新聞全国紙に掲載された。今後は新生児用マットレスの導入も予定しており、再診WEB予約の開始と併せ、産科サービスのさらなる向上を図る。

また、東京都無痛分娩費用助成開始を受け、11月29日には当院の無痛分娩への理解促進を目的とした「お産講座」(講義・院内見学・産後食試食会)を開催。これから妊娠・出産を迎える方々へのアプローチにも力を入れていく。

(総務課 茂木彩)



●特別仕様のマットレス「エアウィーヴ for Sanno」



各キャンパスの学生たちが思い思いに活躍するクラブ・サークルをご紹介します。

## 小田原キャンパス SDGs推進サークル



フードロスを減らす活動の一環で城内校舎に誕生した農園



現在回収中の  
コンタクトレンズの空ケース

### どんなサークル？

初めまして！小田原保健医療学部理学療法学科2年の宮田です。「SDGs推進サークル」は、立ち上げ当初はもともと「委員会」だったのですが、親しみやすさや活動のしやすさを求めて、現在の「サークル」にかたちを変えました。

現在はコンタクトレンズの空ケースの回収をはじめ、学生会とともにペットボトルキャップの回収をメインに活動しています。また最近では、おだわら若者応援コンペティションという小田原市のイベントに応募した企画が採用され、SDGsの目標の1つである「フードロスを減らす」ための一環として大学敷地内のスペースで農園を作る活動も行っています。潮風祭の日には小田原市やタウンニュースの方に取材に来ていただきました。

私たちは医療の知識を大学で学んでいますが、農業の知識は0と言っていいほどありません。このため、大学周辺の農家の方に農業の知識を教えていただき、キャベツやブロッコリー等を育てている最中です。2年生以上が主に使う本校舎

と、農園のある1年生が主に使う城内校舎は徒歩で10分ほど離れているため、部員が毎日水やりに行くことが難しいときは、大学職員の方や清掃の方に手伝っていただくなど、多くの人の助けや支えがあって活動できています。

### 未来のために

今後、農園が維持できるようにになったら、現在行っている「エコ・クリーン」をテーマとする活動に加え、もう1つのテーマである「不平等をなくす」ことにも力を入れたいと考えています。近隣の小・中学校、高校などに訪問し高齢者や妊婦、身体に不自由のある方の生活を体験していただくことで理解を深めていただき、差別や偏見を減らせるよう活動をしていきたいと思っています。



小田原市のイベントに参加後、緊張が解けて笑顔がこぼれる代表

SDGs推進サークル 代表  
小田原保健医療学部 理学療法学科2年  
宮田智祐



潮風祭での取材風景

## ご寄附のお願い

高い志を持つ医療人を1人でも多く育てるために

開学30周年という記念すべき年を迎えた国際医療福祉大学は、ほぼすべての医療福祉専門職を養成することができる数少ない大学のひとつとして、これからも学生の高度な教育・研究のための環境を向上していく所存です。将来の医療福祉分野を牽引する医療人を1人でも多く育てるために、ぜひみなさまからのご寄附をお願いいたします。

### amazonふるさと納税

#### 大田原市・大川市 大学支援事業寄附金について

- 大学支援事業寄附金を指定して、大田原市・大川市にふるさと納税すると、寄附金の95%が大田原市・大川市から国際医療福祉大学に補助金として交付されます。
  - 上限額\*までは、いくら寄附しても実質負担は2,000円。
  - 大田原市・大川市在住の方でも寄附できます。
- ※上限額は収入や家族構成等によって決まります。

大田原版▼

大川版▼

amazon  
ふるさと納税  
サイト



### 国際医療福祉大学開学30周年記念募金

#### 30周年記念募金 募集概要

1. 募金名称 国際医療福祉大学開学30周年記念募金
  2. 募金目的 大学各キャンパスおよび附属施設の教育研究環境の充実を図るための以下の資金に充当
    - 学部・大学院研究機能の強化
    - 校舎や運動施設の整備
    - 奨学金の充実
    - 基礎医学の教育研究強化
    - 薬剤師育成に向けた学修環境の充実
  3. 募集期間 2023年6月～2026年6月
  4. 目標額 30億円
  5. 募金金額 個人 1口 10,000円  
法人 1口 100,000円
- ※ご寄附は任意でございます。

詳しくはこちら▼

